

◆第6次総合計画後期基本計画

施策名		担当課	事業又は項目名	平成29年度				平成30年度				継続検討課題
				H29 委員の意見	既に取組中であったもの	H30 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	H30 委員の意見	既に取組中であったもの	H31 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	
1-1-1	農業経営体の育成強化	農林課	農業構造改革推進事業	後継者の育成が大きな問題であること、個人で農業をやることが限界になってきている。共同経営や法人化が必要なのではないか。 (H29第2回)	集落営農の法人化が必要と考えているが、担い手不足のため、新規就農などで、新たな農業経営者を増やしていく取組を実施している。	新規就農者の確保のため、45歳までであった育成支援を45歳～60歳も対象とし、若い人材育成と担い手の確保を図ることとした。			・「人・農地プラン」の見直しにおいて、担い手の法人化や組織化を進めている。 ・農地中間管理事業により農地の集積を促進しながら担い手の経営効率化と安定化を図っている。 ・農業経営サポートセンターによる、経営体の法人化から経営強化、継承までの一貫した支援を実施している。	北限の桃については果樹協会による担い手育成として、果樹サポーターの組織化を目指していくこととした。		
								営農者の高齢化により、集約化や機械化が図られているが、都会から来た人たちを育成し、担い手になってもらうための工夫が必要ではないか。 (H30第3回)	「シンテッポウユリ」は若い人材も携わっており、新規就農者の確保とともに外貨獲得に向けた支援策を講じている。			
1-1-2	農業生産の振興	農林課	水田転換主力作物づくり事業	秋田県では枝豆に力をいれてきているが、本市でも作付面積は増えてきているのか。 (H29第2回)	枝豆は転作の中で取り組んできているため、ブランド作物には入っていないが、本市も転作の有望品目として面積は伸びてきている。	需要・採算性の高い6品目のうち、メガ団地の形成を意識した3品目(枝豆・ネギ・花き)の作物に支援し、安定した農業所得の向上を図ることとした。						
1-2-3	雇用の安定	産業活力課	就職支援事業	企業が人材不足になってきているなか、どのように安定を図っていくのか。		企業の人材不足を補うため、労働力(雇用者)を確保するための宿舍借り上げなどに対する支援制度を新設した。				・秋田労働局との雇用連携協定の推進や地元企業の情報発信、大手就職サイトとの連携など地元就職に繋がる支援を促進することとした。 ・人手不足感の強い建設業及び運輸業における人材確保を促進するため、中型以上の第一種、第二種免許の取得支援を実施することとした。 ・首都圏からの移住と就業、起業・創業のマッチング支援を行うこととした。		
1-3-1	観光の振興	産業活力課	観光宣伝推進事業	利用者を直接送迎するよりも、サービスを代替することで利便性を確保することを検討したい。				①湯の駅おおゆの冬期間は外のスペースが利用できない為、中のスペースを活用できるよう検討が必要。 ②トイレとレストランが狭く団体客の集客が厳しいのではないか。 入口付近に観光案内板(地図など)があると観光客が利用しやすい。 ③周辺施設や中滝ふるさと学舎などと連携し、観光客の流れを作ることが必要。 (H30第2回)	①全天候型のアパートを整備し、冬季にも屋外スペースを最大限活用していく。 ③周辺施設と連携し、期間を限定しているがお得なクーポンを発行し誘客を促している。		②施設のハード整備については様々なハードルがあり、対応が厳しいところもある。	②団体客の受け入れには広場スペースの利用や時間調整などによって混雑緩和ができるよう検討していく。
2-2-3	地域医療体制の充実	いきいき健康課	あんしん医療推進事業					「テレフォン病院24」について知らなかった。 (H30第2回)	H30.5月号広報で特集したほか、各種検診のお知らせに合わせた周知を行っている。H29は1937件の利用実績があり、一定の効果があつた。			市民アンケートでも知らなかったという意見が半数を超えているため、様々な機会でも周知に努めたい。
3-1-1	公共交通の確保	市民共動課	地域公共交通維持確保対策事業	①高齢者が若い人と同居していても、働く世代のため、必要な時に車で病院や買い物に置くことは困難である。 ②また都市部と農村部でも実情が違う。それぞれの実情にあった取組が必要と感じる。 (H29第2回)						②新たな交通手段の確保として、八幡平地区で予約型乗合タクシーの実証運行を実施することとした。	①70歳以上に対しバスの定期券・回数券購入に対する助成を行っているほか、80歳以上に対しタクシー券の交付を行っているが、交通手段を持っていない場合の支援であり、一定の要件を設けている。	デマンド交通の実証試験を実施し、採算性が取れる結果となった。これを先行モデルとして各地域の実情に合った形で実施できるよう進めていく。

◆第6次総合計画後期基本計画

施策名	担当課	事業又は項目名	平成29年度				平成30年度				継続検討課題
			H29 委員の意見	既に取り組中であったもの	H30 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	H30 委員の意見	既に取り組中であったもの	H31 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	
3-3-1	快適環境の創出	農林課	黒森山憩いの森整備事業				環境整備を行った後も、クマの出没などの心配はないか。 (H30第3回)				大湯ストーンサークルと同様に、市民が利用する箇所は対策を講じた上でオープンさせる。
4-1-1	学校教育の充実	総務学事課	ふるさと生き生きネットワーク事業				尾去沢中、八幡平中、十和田中など、地域資源を生かした中高生による案内ボランティアの活動を評価していたきたい。 (H30第3回)	市民からも評価が得られるよう広報紙や市ホームページ等で周知に努めた。また、全国中学校スキー大会開会式では地元中学生による企画で、各校ボランティアの取組が映像で紹介され、大きな反響を得た。			
4-1-1	学校教育の充実	総務学事課	統廃合による校舎の活用／通学路の安全確保				草木小と花輪北小学校舎について、住民と相談しながら活用方法を検討していただきたい。(H30第3回)				旧校舎の活用については、地域住民の意見を伺い、地元での活用を優先的に検討し、次に産業振興が図られる方法を検討していく。
							中学生は部活で帰りが遅くなるため、自転車通学路の街灯点検など、安全対策が必要。 (H30第3回)	通学路整備については、毎年教育委員会で見検しており、最近ブロック塀の危険個所の調査も実施している。			
4-2-3	文化財の保存と活用	生涯学習課	文化の杜交流館事業	多くの行事があり、チケット購入を勧められるが、有料チケットのイベントは参加層が限られてきているのではないかと感じる。 (H29第2回)	コモッセは芸術鑑賞以外にも子ども未来センターや喫茶店、図書館などあり、それぞれのどの程度利用されているか分析している。	市民ニーズを把握し、鑑賞したことのない人たちに興味を持ってもらうため、これまで取り上げなかったジャンルの鑑賞機会を設けるほか、体験型の事業と組み合わせるなどイベントの充実を図る。					
5-1-1	地域コミュニティの活性化	市民共働課	自治会コミュニティ活性化支援事業／集落支援員活動事業	自治会も高齢化してきているため、事業の縮小や廃止などしているところもある。若い人を増やし、高齢者をサポートできる仕組みづくりが必要ではないか。 (H29第2回)	若い人が関わる割合が減ってきているため、今年度集落支援員を配置し、自治会の悩みを解決できるような取り組みを進めている。						自治会アンケートや集落支援員により、自治会の現状と課題を把握し、集落の状況に応じた支援を検討する。
-	評価制度	政策企画課	市民アンケート	①雇用の安定とはAターンや高卒者に対してだけで、地元の人たちに対する雇用は含まれないのか。 ②市民目線からすると雇用の安定とは働く場の確保も含まれているものと考えているため、施策体系が行政側と市民との間でズレがあるのではないか。 (H29第2回)	①地元雇用を生むのは地域産業の活性化の分類になり、経営力の強化などに取り組んでいる。						②雇用の安定とは就職支援や待遇改善などであるが、地域産業の活性化も含め雇用機会の創出や雇用の拡大の意見として受けとめている。
							アンケートを公開しているようだが、自由意見には市に対する意見ではないものも多い。その意見が適切ところに届くような仕組みづくりができないか。 (H30第2回)	市役所だけでは解決できないような意見については、担当部署が関係機関等が集まる会議などの場面で伝えるなどしている。			
-	実施計画全般	政策企画課	実施計画への反映				アンケートの結果から、その対策が目に見えてこないのではないか。結果が出ないのであれば違う施策の検討も必要なのではないか。 (H30第2回)	捉えた課題については改善につながるよう担当課と協議をし、新規事業の追加や拡充など、翌年度の実施計画に搭載している。			
							アンケートの結果から分析をしているが、専門的でない職員が分析して検討するよりも、専門家を雇うことで、職員の負担も減り、効果的な施策を実施できるのではないか。 (H30第2回)	移住コンシェルジュのような専門家もいるが、それぞれの会議の中で専門的な方にも参加いただきながら協議を行っている。 施策については、政策アドバイザーとして大学教授3名から市の総合的な課題についてアドバイスをいただいている。			

◆第6次総合計画後期基本計画

施策名		担当課	事業又は項目名	平成29年度				平成30年度				継続検討課題
				H29 委員の意見	既に取り組中であったもの	H30 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	H30 委員の意見	既に取り組中であったもの	H31 実施計画に反映したもの	反映が困難なもの	
								内容が立派すぎるものもあり、すべての事業を実施していけるのか不明である。何を最終的に目標としているのか。(H30第3回)	住んでいる人が「住んでよかった」、鹿角に来た人も「来てよかった」と思ってもらえることが理想であり、その1つの数字目標が人口である。減少幅を抑制し(H32で3万人)、年齢構成も歪にならないようすることを目標としている。			